

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	沖縄県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	那覇市立開南小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	2	2	2	15	15
児童数	74	54	84	74	70	73	5	433	

研究の概要

1. 研究主題

主体的に学び、共に生きる力の育成 ～算数科における指導方法、指導体制の工夫を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

3年生	算数（指導工夫改善教師がつく）
4年生	算数（指導工夫改善教師がつく）・国語
5・6年生	算数、理科（指導工夫改善教師がつく）・国語、家庭科

* 児童一人一人の実態や習熟の程度、実態からみて、基礎学力の差が出ている教科を考えると、きめ細かな指導を要するのは算数であると判断した。また学級減のため5・6年に理科専科がなくなったこと、指導工夫改善教師の持ち時数の関係で5・6年は算数と理科に絞り、上記のような実施学年と教科とした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ「主体的に学び、共に生きる力の育成 ～算数科における指導方法、指導体制の工夫を通して～」 研究の見通し レディネステスト・教材教具の工夫と活用等の指導方法や指導体制の工夫改善を行えば、基礎学力の定着を図ることができ、主体的に学び共に生きる力を育成することができるであろう。 研究の内容・方法 児童の実態を把握するために、レディネステストを実施し課題を明確にした上で、習熟度別少人数の指導方法・指導体制の工夫についての実践研究を行う。 全体研として、授業研究会を年3回行う。
--------	---

平成	テーマ 16年度もほぼ同様。 研究の見通し
----	-----------------------------

16 年 度	個に応じた指導の手立てを行う工夫をさらに具体化した仮説をたて実践研究をする。 研究の内容・方法 指導方法・指導体制を、個に応じて工夫する研究を深める。
--------------	---

(3) 研究推進体制

研究推進委員会を構成し、授業研究部、資料調査部において研究を進めている。本年度は、全体研として指導助言の先生を招いて3回の授業研究を行った。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

レディネステストの実施活用、教材・教具の工夫と活用さらに、個に応じた少人数指導を行ったことにより、基礎学力の定着が図られつつある。

指導方法として、算数的な活動を取り入れたり、基本的なノートの指導やワークシートを工夫することで、子どもの興味関心を高めることができた。

少人数で指導したことで、中位から下位の子ども達の理解を深めることができ、子どもの実態に即した指導ができた。また、単元テストの結果が目標値(80点)までほぼ引き上げることができた。

算数科において、効果的な少人数指導(習熟度別学習・等質によるグループ学習)のあり方を研究することができた。

アンケートの結果から、二つのクラスにわけて勉強することで算数がだんだん好きになったという児童が全体の80%と多い結果がでた。

2つのクラスに分かれると、マイペースで集中して学習できる、質問がしやすいわかりやすいなどのアンケート結果から、65%の児童が少人数で学習する方がよいという結果が表れた。

担当教科の教材研究が深まり、指導内容の重点化を図ることができた。

教材が複数回活用でき、次のクラスでは授業改善を図ることができた。

学年全体の児童に関わることで、学習指導や生徒指導における児童理解の面から効果がみられ学年経営に生かすことができた。

2. 今後の課題

上位の子どもに対する発展問題の工夫

学んだことを定着させる工夫(ドリルの活用、家庭学習の工夫、定期的に数と計算の小テストを行う)

少人数指導のさらなる工夫(習熟度別クラス編成の仕方)

下位の子どもに対する個人別学習の指導工夫(家庭との連携、教材研究のための時間確保など)

次年度への引継に個別学習の必要な子の個人カルテの作成(国・算)

教科担任制の研究の進め方の工夫

教科担任制における学校行事や振り替え休業で欠けた時数の確保

教材研究、教具づくり、授業の流し方についての話し合う時間の確保

教科担任制と加配、学級担任との連携の取り方(宿題の与え方、児童の学習理解学習態度の把握)

各学年の資料のまとめ方と教材教具の保管のあり方

学力等把握のための学校としての取組

12月のはじめに6学年の達成度テストといっしょに3年生以上の学年は、県の基礎学力検査を行った。その結果からどの領域に落ち込みがみられるか把握し、指導体制を習熟や少人数で指導していく等の工夫の見通しを立てる。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

今後の予定

* 研究成果普及のためのHP作成

* PTA 総会や学校長発行の学校便りで、研究成果を発表する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無